

「新庄藩戸沢家の歴史を活かした地域価値の創出」に関する政策提言書

1. 検討テーマ

「新庄藩戸沢家の歴史を活かした地域価値の創出」について

2. 解決すべき課題

(1) 現状（課題の背景）

本市には、戸沢家の歴史や火消し文化、新庄まつり、城下町としてのまちの成り立ちなど、物語性を持つ歴史文化資源が蓄積されている。開府 400 年記念事業や羽州ぼろ鳶組ダンスプロジェクト等を通じて、市民の関心を高める契機も生まれている。

しかし、これらの資源は、個別の文化財や単年度の行事、文化施設として存在しているものの、市全体としてどのような歴史文化を守り、どのように活用し、誰に届けるのかという政策的な整理が十分とは言い難い。市民自身が地域の歴史を学び直す機会、子どもや若者が主体的に関わる機会、来訪者がまちなかを回遊しながら歴史を体感する仕組みも、今後さらに充実させる必要がある。

(2) これまでの取組

本市では、ふるさと歴史センターをはじめとする文化施設の運営、文化財の保存、新庄まつり等の伝統行事の継承、開府 400 年に関連する取組、羽州ぼろ鳶組を活用した発信などが行われてきた。これらの取組は、地域の歴史文化を次世代に伝えるうえで重要な役割を果たしている。

一方で、歴史文化資源を教育、観光、中心市街地の回遊、市民活動、若者参画と一体的に結び付ける視点は、まだ十分に図られていない。個別事業の成果を積み上げるだけでなく、地域価値創出という共通の目的のもとで、関係部署や地域団体が連携する仕組みが求められる。

(3) 取組に対する評価

現行の取組は、文化資源の保存や発信に一定の成果を上げているが、市民の誇りの醸成や交流人口の拡大、まちなか回遊、学校教育との連動という点では、なお改善の余地がある。特に、ふるさと歴史センターについては、単なる展示施設ではなく、郷土学習、観光案内、市民交流、体験型展示の機能を持つ拠点として再定義することが必要である。

また、歴史文化の継承には、行政や専門家だけではなく、子ども、若者、市民団体、観光

関係者、地域の担い手に関わることが重要である。市民が「自分たちの歴史」として語り、若い世代が新たな表現で発信する仕組みをつくることが、持続可能な文化継承につながる。

3. 提言する政策

(1) 概要

新庄藩戸沢家の歴史、新庄まつり、城下町の町割り、古民家、矢作家住宅、おたまや等の歴史文化資源を一体的に捉え、「新庄市歴史的風致維持向上計画」に基づく保存と活用を着実に進める。

併せて、ふるさと歴史センターの機能強化、歴史小説等の物語性を活かした文化継承、歴史文化資源を結ぶ回遊ルートの整備、若者による情報発信を推進し、教育、文化、観光、都市整備及び地域活動が連携した歴史まちづくりを展開する。

本施策は、歴史文化資源を「保存」から「活用」へと展開し、地域アイデンティティの醸成、物語性を活かした魅力発信、教育・観光・地域活動の連携による地域価値の創出を目指すものである。

(2) 目標（ねらい・効果）

- ①歴史文化資源を次世代へ継承し、郷土学習や観光に活用することで、市民の誇りと愛着を育む。
- ②ふるさと歴史センターを、郷土を学び、市民と来訪者が交流する歴史文化拠点として活性化する。
- ③物語を入口に若い世代の関心を高め、教育・文化・観光を通じて地域文化の継承と発信につなげる。
- ④点在する歴史文化資源への回遊を促し、来訪者の滞在時間の延長と中心市街地への誘導を図る。
- ⑤若者が歴史文化の発信と継承に主体的に関わる機会を創出し、新たな担い手の育成と発信力の向上を図る。

(3) 具体的施策

提言 1 新庄市歴史的風致維持向上計画を着実に推進すること

新庄藩主戸沢家ゆかりの歴史的風致を中心に、歴史文化資源の保存と活用を計画的に進める。教育、観光、文化、都市整備及び地域活動の連携を強化し、既存資源や既存事業を整理するとともに、物語性を活かした情報発信を行う。

毎年度、事業の実施状況、成果、課題及び今後の対応を検証し公表する。また、必要に応じて事業内容や実施体制を見直し、市民が計画の成果を実感できる進行管理を行うこと。

提言 2 ふるさと歴史センターを歴史文化交流拠点として機能強化を図ること

ふるさと歴史センターを、資料展示を基礎としながら、郷土学習、観光案内、市民交流及び体験型展示の機能を備えた歴史文化交流拠点として位置付ける。

施設の利用状況、展示内容、利用者層、学校との連携状況及び観光導線上の課題を整理する。大規模改修を前提とせず、人物や物語を軸とした展示への改善、体験プログラムの充実、学校との連携及び観光案内機能の強化などの取組を求める。

提言 3 羽州ぼろ鳶組等を活用した地域文化継承事業を継続・発展させること

歴史小説等により付加された物語性を活かし、新庄藩戸沢家の歴史や火消し文化への関心を高める。講座、読書企画、ダンス・演劇等の文化活動、体験活動、発表機会及び SNS 発信等を組み合わせた事業を試行・継続する。

文化・社会教育部門、学校、図書館、観光団体及び若者団体が連携し、単発イベントに終わらない実施体制を構築する。

提言 4 歴史文化回遊ルートを整備すること

ふるさと歴史センター、城址公園、矢作家住宅、中心市街地等の歴史文化資源を結び、物語性のある回遊ルートを設定する。案内表示、まち歩きマップ、QR コード等によるデジタル情報及びガイドの活用により、地域の歴史文化を体感できる回遊ルートを整備する。中心市街地、商店街、交通事業者及び地域団体と連携し、既存のマップや観光情報を見直すなど、低コストで実施できる取組から実施する。

提言 5 若者参画型の歴史文化発信を進めること

高校生、大学生等の若者が、SNS、動画、展示、まち歩きガイド等を通じて、本市の歴史文化を自分の言葉で発信できる機会を創出する。

学校、大学、地域団体及び観光団体と連携し、令和 8 年度から小規模な発信プロジェクトを試行する。若者が企画段階から参加し、主体的に内容や発信方法を選択できる仕組みとする。

4. 調査及び検討の経過

(1) テーマ設定の経緯

委員会では、地域文化の活用不足、交流人口の伸び悩み等の課題を共有し、政策提言テーマの検討を行った。市民アンケートでは、観光や交流への期待が高い一方、文化・芸術活動や文化財の保存・整備・活用に関する評価が低く、本市の文化資源の活用不足が課題として確認された。これを踏まえ、歴史文化資源を地域価値の創出につなげることを政策提言のテーマとして設定した。

(2) 所管事務調査の状況

所管課より課題についての現状、政策等の状況についてヒアリングを行った。

- ・令和 8 年 7 月 24 日 商工観光課、都市整備課
- ・令和 8 年 7 月 27 日 社会教育課

（３）先進地視察の状況

- ①令和８年１月２８日から令和８年１月２９日にかけて、米沢市上杉博物館、会津若松市若松城周辺及び福島市古関裕而記念館を対象に実施した。米沢市の上杉博物館では、歴史資料の展示にとどまらず、甲冑試着や制作体験などの参加型コンテンツを通じて、歴史・教育・観光を一体的に展開していた。会津若松市では、若松城を中心に城下町全体への回遊を促し、プロジェクションマッピング等の演出も活用しながら、物語性のある魅力発信と地域経済への波及を図っていた。福島市の古関裕而記念館では、人物を軸とした文化発信に加え、音や映像を活用した体験型展示やイベントとの連動により、市民と観光客の双方を巻き込む文化拠点が形成されていた。

これらの視察から、歴史文化資源に物語性や体験性を付加し、教育・観光・地域活動と結び付けることが、地域価値の創出に有効であるとの知見を得た。

- ②令和８年７月３０日、新潟県新潟市の新潟市マンガ・アニメ情報館を視察した。新潟市は著名な漫画家を数多く輩出しており、同館をはじめ、マンガ・アニメを観光コンテンツとして活用している。同館では、新潟ゆかりの漫画家やアニメクリエイターの紹介に加え、特別展を開催するなど、幅広い世代に向けた情報発信を行っていた。また、アニメ制作会社の誘致にも取り組み、マンガ・アニメを観光資源にとどめず、産業の育成や雇用の創出につなげる政策として展開していた。

これらの視察を通じ、歴史文化資源についても、展示や紹介にとどまらず、観光や産業への波及を視野に入れた事業展開が重要であるとの知見を得た。

（４）政策の検討状況

政策提言の内容に関しては、これまで議員間討議を３回（令和８年６月８日、７月１４日、８月３日）、及び議会改革研修会（令和８年６月２６日）において検討、精査をしてきた。

（５）市民意見の聴取と反映

市民との意見交換会は、令和８年５月２６日に実施した。会では、地域の歴史を市民自身が学び直す機会、若い世代が関わる仕組み、観光やまち歩きと連動した発信の必要性が示された。これらの意見を踏まえ、本提言では、歴史文化資源を「誇り」「学び」「交流」に結び付ける施策を中心に整理した。